04_横須賀市｜
こどもの健やかな成長を支えるためのデータ基盤活用の実証

Copyright（C） Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

04_横須賀市｜こどもの健やかな成長を支えるためのデータ基盤活用の実証

*総括管理主体：各担当部局からのデータを組み合わせて判定ロジック等を用いて人によるアセスメントの補助となる判定を行う部局
*保有・管理主体：教育・保育・福祉・医療等のそれぞれの分野に関するデータを保有する担当部局
*分析主体：データを分析して総括管理主体が困難な状況にあるこどもを把握するための判定アルゴリズム等を作成する者
*活用主体：データの提供を受け入れによるアセスメントやプッシュ型（アウトリーチ型）の支援につなげる者

▼自治体の概要

自治体名	横須賀市（神奈川県）	位置	参加関係者の体制、役割*			
			総括管理主体	保有・管理主体	分析主体	活用主体
人口	375,781人（2023年8月時点）		（庁内） • デジタル・ガバメント推進室 （庁外） • NTTデータ経営研究所	（庁内） • 介護保険課 • 健康管理支援課 • 健康増進課 • 健康保険課 • 子育て支援課 • こども家庭支援課 • こども給付課 • 障害福祉課 • 生活福祉課 • 地域健康課 • 保健所企画課 • 保健予防課 • 窓口サービス課 （庁外） • 神奈川県後期高齢者医療広域連合	（庁内） • － （庁外） • NTT東日本 • 九州大学	（庁内） • 健康福祉センター （庁外） • 児童相談所
担当部局名	横須賀市経営企画部 デジタル・ガバメント推進室					

▼本事業の実施概要

背景、目的	**背景** • 全国的にも、横須賀市としても虐待の相談件数が近年増加傾向にある。 • 同居者の心身不調による子どもの虐待が多いように、虐待以外の問題についても、同居者の心身不調が子どもの発育に影響を及ぼす可能性が高いと考えられる。 **目的** • 問題（「児童虐待」及び児童虐待の要因のひとつと考えられる「こども及び同居者の健康状態」）の早期発見を可能とする。 • データ活用（対象となるこどもの時系列での生活実態の把握を簡便に行えるなど）による迅速な情報収集を可能とする。
対象とする困難の類型	**虐待、同居者の心身における健康状態が子どもの発育にどのような影響を与えるか**
本年度の取組概要	**本年度末時点で到達していたい姿（予定）** • 令和6年度の展開に向け、システム構築及びフィールドでの検証が終わっている状態。 **上記に向けて本年度中に実施すること** ① データ連携のための法的整理の実施。 ② 各課保有のデータを一元化し、虐待検知のためのシステムを構築。 ③ 実際に虐待リスクのある児童を抽出し、モデルの精度を精査。 ④ 同居者の心身における健康状態に関連するデータ項目を連携し、こどもの発育との関係性を検討。

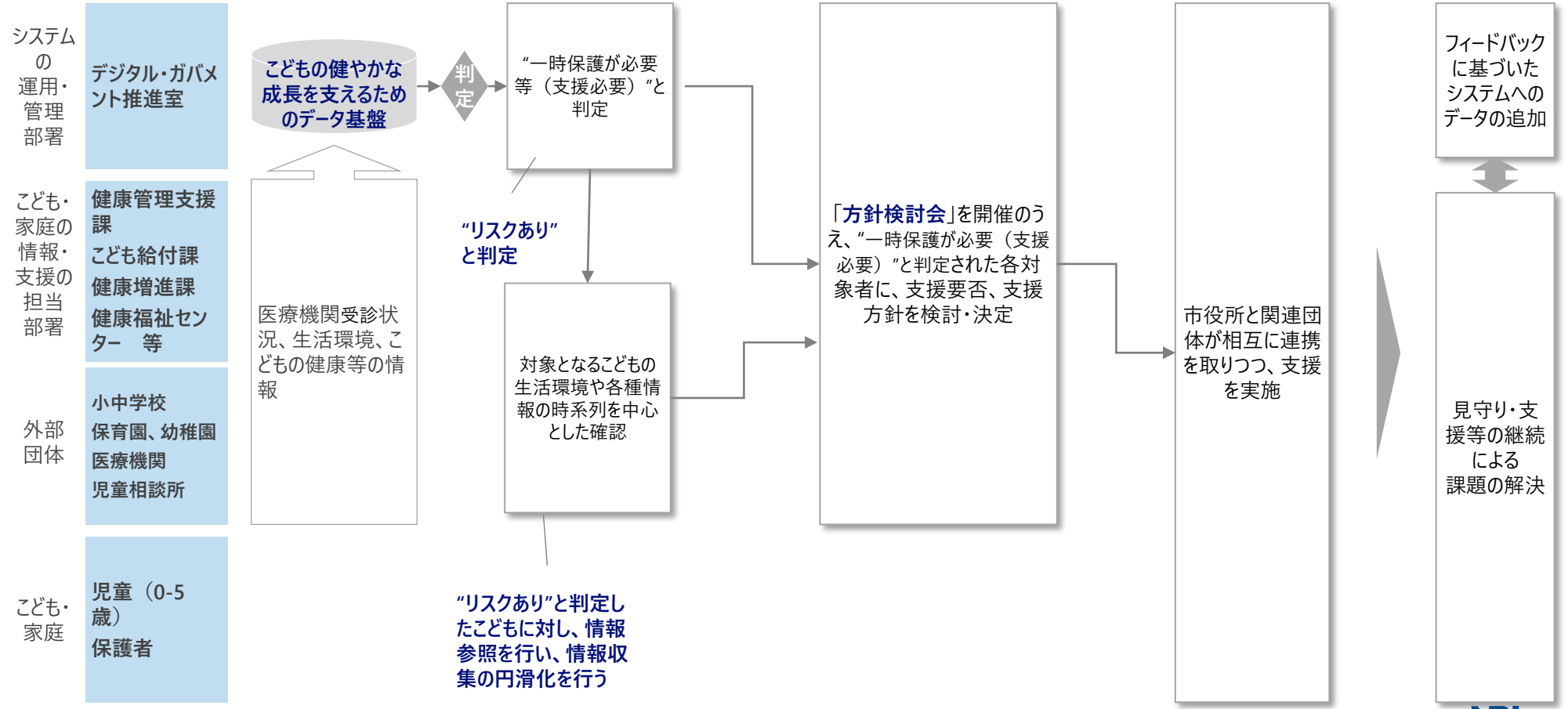
Copyright（C） Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

04_横須賀市｜こどもの健やかな成長を支えるためのデータ基盤活用の実証

▼こどもデータ連携による、支援業務プロセスの概要

- データを横断的に連携することで支援を必要としている児童を早期に発見することができ、市役所内外との連携を行いながら支援を届けられるようになる。

	システムによる判定	人による絞り込み（アセスメント）	実際の支援（プッシュ型支援）
本こどもデータ連携の取組の特徴	• データをデータ基盤に一元化することで、**早期に支援が必要な児童を発見**することが可能。	• データに基づき児童が抽出されることで、**個人の状況に応じた必要な支援の検討が効率的に行える**ようになる。	• 現場からのフィードバックを受領することで、必要なデータので追加を行い、**判定の精緻化**が可能。

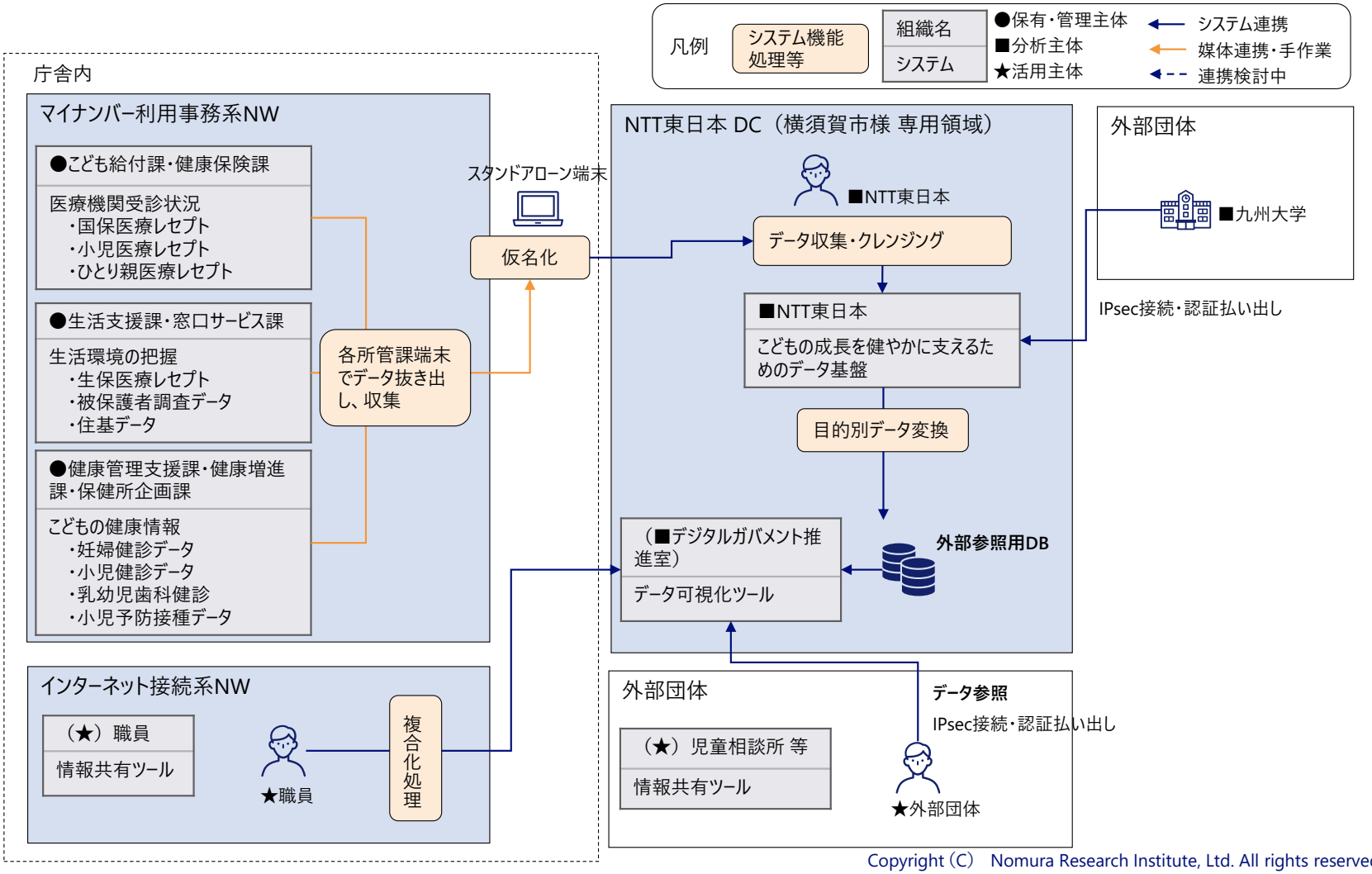


Copyright (C)　Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

04_横須賀市｜こどもの健やかな成長を支えるためのデータ基盤活用の実証

▼データ連携方式

- NTT東日本データセンター内の横須賀市専用領域にシステムを構築。連携方式はCSVによる手動連携で、庁内に設置したスタンドアローン端末にてマスキングを実施する想定。
- 外部団体からデータセンターへのアクセスはIPsec接続を用いており、横須賀市承認の上、外部団体等へアクセス権を払い出す運用としている。
- 候補となる対象データは、データの内容や分析項目、取得の簡便さ等を考慮する。そのうえで、個人情報保護の観点から適法性を確認し、最終的に取得する。
（以下のデータは現状検討中のものも含む）



Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

04_横須賀市｜こどもの健やかな成長を支えるためのデータ基盤活用の実証

▼本年度事業の進捗、課題等

	実施方針（本年度中に実施すること）	本年度、実施してきたこと	直面した課題、及び本年度実証における対応策（案）
利用するデータ項目の選定、及びデータの準備	• 厚労省の共通リスクアセスメントツールや現場の意見等を参考にデータ項目を選定。	• 健康福祉センターや児童相談所に支援の際に必要なデータ項目をヒアリング。	• （課題） 「小児医療レセプト」と「ひとり親医療レセプト」は入手に費用がかかる。 （対応策）検討中。
判定基準*の構築・精査 *支援が必要と考えられるこども等をデータにより抽出するための判定ロジック	• こどもの成育における要観察となる事象や要支援となる項目データをスクリーニングできる環境を用意する。各項目の相関関係によって、リスク判定モデルを構築する。 • 1回目に試行的に構築した判定基準を踏まえた判定及びアセスメントの結果を踏まえて、判定基準の見直し・確定を行う。	• 判定（予測）内容の検討。	• （課題）十分な教師データが揃わない可能性がある。 （対応策） 必要に応じて、データの収集状況により適切なリスク判定モデルの構築を目指す。
個人情報の適正な取扱いに係る整理 （法的整理、手続き等）	• 各データの利用・活用時において、適法性の確保の仕方を整理。 • PIAの実施、実施結果についてもJIPDECから外部評価。	• 弁護士に参画いただき、データ項目ごとに法的整理の方針を明文化。	• （課題）内閣府見解により本事業における課税情報の利用が困難と判明した。 （対応策） 児童扶養手当の受給状況等、所得状況を判断するために代替となるデータの活用を想定。
システム*の企画・構築 *自治体によるが、データ連携、システム判定、判定結果の表示・伝達などを行うシステム	• 「こどもの健やかな成長を支えるためのデータ基盤」を構築し、セキュリティを確保したうえで、庁内外の関連組織が、定義された条件に基づき、データの参照および情報共有を行える仕組みを構築する。	・今回実証における取得分析対象データ候補の洗い出し。 ・市側で取得できるもの、別途費用等が必要なもの等の選別済み。	• （課題）今年度の実証においてはシステム構築事業者のデータセンターにて構築するが、最終的なシステム構成は、ガバメントクラウドへの移行も踏まえ、どの環境にて構築すべきか検討が必要である。
システムによる判定の実施	• 0-5歳の児童とその世帯を対象母集団として、虐待リスクのある児童を抽出する。	（未実施）	（未実施）
判定されたこども等を対象とした、人による絞り込み（アセスメント）、実際の支援の実施	• 他部局・外部団体（児童相談所、健康福祉センター、こども家庭支援課）と連携して方針検討会を開催。対応方針を決定する。（本年度は外部団体との連携は実施しない予定。）	（未実施）	（未実施）

・・・

以降、取組効果の分析に続く

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.